



下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011.7.19

下水道機構の『新技術情報』 第5号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>



メルマガをご覧のみなさま、暑中お見舞い申し上げます。

涼を求めて「水」のつく話をひとつ。下水道機構の所在地をご存知ですか？答えは、新宿区「水道町」です。かつて神田上水に沿った地であったことが名前の由来だそうです。以前は、池袋にあった下「水」道機構は4年前に「水」道町へ引っ越してきました。きっと水に呼び寄せられたのかもしれないですね。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第4号をお届けします。業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

～トピックス～

☆インフォメーション

- ・来週開催の下水道研究発表会において、当機構からは14編の発表を行います
- ・群馬大学大学院の片田教授をお招きし、「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」をテーマに技術サロンを開催しました！
- ・平成23年度の第1回新技術設計手法等共同研究委員会において、リスク管理を考慮した監視システムに関する共同研究の審議を行いました

☆機構の動き

- ・今週は平成23年度第1回管路技術共同研究委員会(機構特別会議室)が開催されます(主な議題；「衝撃弾性波法による管路診断技術に関する共同研究」及び「下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究」の審議)

☆Tea Break

- ・「横浜・川崎港ナイトクルーズ」(技術評価部 油井さんの投稿です)

☆みなさまからのコラム・皆様からの情報を募集しています！

☆国からの情報

- ・7月16日付けの下水道ホットインフォメーションです

.....
インフォメーション (最新の話題です)
.....

○下水道研究発表会において、機構からは14編の発表を行います!

当機構では、下水道研究発表会の場を活用して、研究成果を発表し、下水道事業への新技術の導入や普及啓発、情報交換等による技術のさらなる向上等を図ることとしております。

今年は14名がエントリーし、研究成果を発表します。発表者とテーマは下記のとおりです。いずれも下水道事業における課題解決のための最新技術に関する研究成果の発表ですので、皆様ぜひご参加ください。

- ・7/26(火)15:00 第3会場 下水汚泥エネルギー化技術導入検討に関する一考察
【資源循環研究部 浦部幹夫】
- ・ // 15:15 第3会場 下水処理場でのバイオマス受け入れに関する研究
【資源循環研究部 長沢英和】
- ・7/27(水)09:25 第3会場 大規模地震による下水道施設の被害とその影響に関する研究
【研究第一部 土手一朗】
- ・ // 09:40 第3会場 クイックプロジェクト(露出配管)に関する研究
【研究第一部 山賀秀昭】
- ・ // 10:10 第7会場 下水処理場施設の合成木材製カバー更新に関する研究
【研究第二部 田村司郎】
- ・ // 10:20 第2会場 スtockマネジメントにおける簡易な手法による計画策定について
【研究第一部 多田明男】
- ・ // 14:00 第3会場 降雨予測情報を用いたリアルタイム雨水情報ネットワークに関する研究
【研究第二部 亀谷 佳宏】
- ・ // 14:15 第3会場 局地的大雨による浸水被害の特性把握及び対策手法の検討
【研究第一部 坪川貴芳】
- ・ // 15:25 第2会場 効率的な汚水処理システムの将来構想に関する共同研究
【資源循環研究部 阿部真由美】
- ・ // 15:35 第7会場 水熱処理を用いた下水汚泥のエネルギー転換および減量化技術【資源循環研究部 南政慶】

- ・ 〃 16：05 第 7 会場 小規模用下水汚泥の燃料化システムに関する共同研究
【資源循環研究部 朽岡英司】
- ・ 7/28(木)11：20 第 3 会場 プラスチック製雨水地下貯留浸透施設に関する研究
【研究第二部 藤田喜彦】
- ・ 〃 13：45 第 5 会場 衝撃弾性波法を用いた管路診断技術に関する研究
【研究第二部 井藤元暢】
- ・ 〃 14：05 第 1 会場 低 DO 状態における同時硝化脱窒反応に関する調査研究
【研究第一部 前田明德】

○群馬大学大学院の片田教授をお招きし、「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」をテーマに技術サロンを開催しました！

7月14日(木)、機構会議室において技術サロンを開催しました。今回のサロンには、防災教育の第一人者、群馬大学大学院の片田教授をゲストにお迎えし、「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」をテーマにご講演、意見交換しました。先生のご専門は災害社会学。当機構のリアルタイム雨水情報ネットワークに関する共同研究委員会の委員にもなっています。また、逃げどきマップなど、河川、下水道におけるハザードマップの分野でご存知の方も多と思います。震災を踏まえたご講演や国等の各種委員会等に多忙を極めておられる中、今回は先生の貴重なお時間をいただきました。ということもあってか、17:30 から 19:00 までいつもの 17:00 から 18:00 より遅い時間帯であるにもかかわらず、会議室は 60 名強の参加者で埋め尽くされました。

ご講演は東日本大震災の被災状況のご説明から始まり、キーワードとなる「想定外」についてのお考え、「ありうることとしての想定」と「防災行政上の想定」という 2 つの意味等々、また、今回の大震災では何が問題だったのか、それは想定にとらわれすぎた防災にあったのではないかとお考えが示されました。そして、先生が震災前から精力的に取り組まれてきた釜石市における防災教育に話が及びました。そこでは釜石市の児童・生徒の避難に学ぶ「避難 3 原則」として『想定にとられるな』『最善をつくせ』『率先避難者たれ』の考えが示されました。この考えは防災教育にとどまらず、私たちの仕事に対する姿勢、はたまたこれからの生き方にまで当てはめられるのではと思えるような原則です。さらに、今回多くの犠牲者がでたことを分析して、これからの防災がいかにあるべきか、人が死なない防災であるべきではないかとお考えが示されました。最後に紹介された「津波てんでんこ」。この言葉の意味の深さ、重さを感じました。意見交換も含めて時間は 40 分も超過。しかし、意見交換で参加者から最初から最後まで話に引き込まれたという素直な感想が出されるほど、その知見等の豊富さ、話の分かりやすさ等に参加者一同が時間を忘れて引き込まれていました。まさに防災教育を受けていたのではと感じました。プレゼンテーションの面からも学ぶべきところが多かったと思います。

今回、地方公共団体の参加者が少なかったのですが、これらの内容は行政に携わる方には非一緒になって聞いていただきたい内容でした。概要は秋に発信予定のニューズレターでお伝えしようと考えておりますが、時期等を逃さないよう、残念ながら参加できなかった皆様、次回はリアルタイムでのご参加をお待ちしております！

ということで、次回の技術サロンは9月の第二木曜日、9月8日の開催です。時間は17:00から18:00までの1時間。短い時間ですが、大勢の皆様の興味をそそるゲストそしてテーマで臨みたいと思っています。1月ほど前にホームページに掲載し、申し込みを受け付けます。乞うご期待！

○7月15日金曜日に第1回新技術設計手法等共同研究委員会を下水道機構の会議室において開催し、「リスク管理を考慮した監視システムに関する共同研究」について審議を行いました。

本研究は、昨年度より2ヶ年の期間で、重電5社（東芝、日立、明電舎、メタウォーター、三菱）と下水道機構が共同で実施しているもので、下水処理場等にある従前の監視システムを高機能化することで、下水道のリスク管理や軽減に寄与可能な技術について研究し、「技術資料」として取りまとめることを目的としています。

委員会では、昨年度実施した下水道事業者（300箇所）へのアンケート調査の結果等を踏まえて、本研究で取り上げるリスク事象について審議し、「ノウハウ・技術継承問題」、「雨水対策」、「省エネ対策」等とすることが確認されました。その他研究内容全般について活発な議論が展開され、今後は委員会での意見を踏まえて、具体的な監視システム（支援システム）の技術内容について研究を進め、次回の委員会（11月開催予定）で審議を行う予定となっています。

機構の動き （機構の行事予定です）

◎7月20日(水)15:00～17:30

平成23年度第1回管路技術共同研究委員会(機構特別会議室)(主な議題 「衝撃弾性波法による管路診断技術に関する共同研究及び下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究の審議」)

○7月26日(火)～7月29日(金)

下水道展への出展(パブリックブース)及び下水道研究発表会での発表 (14編)

『下水道展 '11 東京』 ホームページはこちら→ www.gesuidouten.jp/

Tea Break (機構職員の感じるまま)

○横浜・川崎港ナイトクルーズ(技術評価部 油井さん)

関東地方が梅雨明けになった翌日の日曜日、ナイトクルーズを楽しみました。

場所は、山下公園近くの横浜税関事務所の前にある「象の鼻パーク」埠頭です。ここは 1854 年ペリー提督一行が上陸し、横浜開港となったところです。

今回は横浜散策ツアー一行 30 人と共に、サンタバルカ号「聖なる小舟」に乗り込み、夜 7 時に出航しました。この船は排水量 18 トン、定員 80 名、3 年前まで扇島整備工事で専ら従事している人々を運んでいたのです。その役割を終え、実は今、人気を呼んでいる横浜・川崎の運河を巡り、京浜工業地区で活動する工場群を海から眺めるクルーズの主役なのです。食事・飲物の提供はなし。船長の案内と運転技術に頼ってひたすら眺めるか、写真を撮るのです。

LNG の貯留タンク群、火力発電所、製鉄所、コンテナターミナル、製糖所、製粉所、JR 鶴見線の 2 駅を敷地内に持つ巨大企業などの施設。メンテの照明に輝く石油精製所の巨大プラントは、見る位置によって人が住んでいるマンション・ガンダム格納基地・あるいは浮かび上がる宇宙船のよう。余剰燃焼煙突からの炎はまるで竜が火を吹いているよう。ドックに係留され現在修理中の南極観測船「しらせ」は、そのオレンジ色の船体と形が素敵です。最後になぜか 1 艇の上陸艇が置かれた米軍施設のノースドックを経て、大棧橋脇を通過して 2 時間の小旅行は終わりました。日本の経済の中心的な役割を担い活動している企業、造り出されるエネルギーなどを目の当たりにして、現在の日本の状況を考えさせられました。被災地で現在もご苦労されている皆様の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

みなさまのコラム (皆様からお寄せいただいた情報です)

○掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

下水道ホットインフォメーション（2011.7.16 付、国からの最新情報です）

送信元： 国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

災害査定で一週空いてしまいました。

今週は、井上康生選手（正しくは山口祐司さん）の後任で、7月から資源利用係長となった西迫さんからのメッセージです。前任の柔道家とは随分と雰囲気の違いの違う知的（そう）な女性です。

=====

7月1日付で前・下水道企画課資源利用係長の山口の後任として環境省からまいりました、西迫里恵と申します。

これまでは環境省において、大気環境課、地球温暖化対策課の部署に在籍しており、直近では、地球温暖化対策の中長期ロードマップ策定業務等に携わっておりました。また、大学では衛生工学を専攻し、下水の高度処理の研究を行っておりました。

下水道企画課においては、当面は放射性物質が含まれる下水汚泥に係る対応が主な業務となりますが、資源利用係として、下水汚泥等の有効利用関係業務に従事していきたいと思っております。下水道が有する豊富な資源・エネルギーの有効利用の更なる促進によって、都市機能の一つとしての下水道事業の強化、下水道の経営改善に貢献するとともに、循環型・低炭素型社会の形成に資することができるよう、努力してまいります。

震災によってエネルギーや社会インフラのあり方が問われている中、その両方に関係する下水道行政に携われる機会に恵まれましたこと、大変嬉しく思っております。

不慣れな点も多く、皆様には色々とお迷惑をおかけするかもしれませんが、ベストを尽くす所存ですので、御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

=====

次号は7月13日付で異動となった下水道事業課吉田補佐（現京都府水環境対策課長）からのメッセージを掲載予定です。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

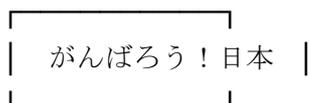
○下水道セーフティネット7月1日号をHPにアップ【下水道事業課】

=====

○下水道セーフティネット 7月1日号を HP にアップ【下水道事業課】

今年 6 月の下水道工事現場での事故者数は 5 (昨年同月と同数)。うち死亡 1、第 3 者 1。死亡事故は吊金具からの敷鉄板の滑落によるもの。第 3 者事故は歩行者への安全誘導の不徹底によるもの。今後、より一層の安全点検 (特に吊り具やロープ等) の徹底を!

http://www.mlit.go.jp/crd/crd_sewerage_tk_000005.html



◆◆◆◆ 東日本大震災関連 ◇◇◇◇

◎今週のトピック ～第 3 回下水道地震・津波委員会を開催します～

日時: 7月19日 (火) 13:30～

場所: 日本下水道協会 (内神田すいすいビル) 5階

主な議事 (予定): 本復旧のあり方について

その他: 議事は非公開 (冒頭カメラ撮りは可能)、会議資料及び議事概要は後日 HP にて公開

http://www.mlit.go.jp/report/press/city13_hh_000132.html

○下水道施設被害状況 (7月14日時点)

下水処理場 | 震災当初 | 現在

稼働停止	48	16	※1
施設損傷	63	—	
正常に稼働	—	95	※2
不明	9	9	※3

計 | 120 | 120

※1 応急対応中 13、準備中 1、汚水発生なし 2

※2 ほぼ通常の処理を含む

※3 福島第一原発周辺

ポンプ場 | 震災当初 | 現在

稼働停止	79	21	※1
施設損傷	32	17	
正常に稼働	—	73	※2
不明	1	1	※3
計	112	112	

- ※1 汚水 3 (すべて応急対応中)
 雨水 18 (応急対応中 8、排水対象なし 10)
- ※2 ほぼ通常の排水を含む
- ※3 福島第一原発周辺

下水管きょ (テレビカメラによる調査の結果)
 11 都県の 126 市町村等 (うち 2 次調査済 119)
 被害延長/総延長 555km/62,687km

※被害状況については国土交通省 HP にも掲載

http://www.mlit.go.jp/saigai/saigai_110311.html

http://www.mlit.go.jp/crd/crd_sewerage_fr_000007.html

=====

【参考情報】

◆汚染水の放射性物質除去、金沢大教授が処理剤開発 <7/8 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20110708-OYT8T00668.htm>

◆本復旧に 6 2 0 億～7 9 0 億円 仙台市・南蒲生浄化センター <7/8 河北新報社>

<http://www.kahoku.co.jp/news/2011/07/20110708t11030.htm>

◆高岡の下水から微量の放射性物質/富山 <7/8 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/toyama/news/20110708ddlk16040609000c.html>

◆下水管網整備に補助金、汚水処理市場の発展加速へ=中国 <7/8 サーチナニュー

ス>

http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2011&d=0708&f=business_0708_211.shtml

◆放射性物質検出の下水汚泥 川崎市、浮島に保管 21日から <7/9 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/kanagawa/20110709/CK2011070902000044.html>

◆上下水道・汚泥放射性物質濃度、16施設で基準値上回る／福島 <7/9 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/fukushima/news/20110709ddlk07040245000c.html>

◆県管理の下水処理場の汚泥から最高223ベクレルの放射性物質／群馬 <7/9 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/gunma/news/20110709ddlk10040163000c.html>

◆日立、韓国LGと水事業を世界に展開 10月に合弁で新会社 <7/11 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/110711/biz11071111220001-n1.htm>

◆打ち水でひんやり 園児ら100人 <7/12 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/fukuoka/news/20110712-OYT8T00076.htm>

◆下水汚泥線量が低下傾向に 県内施設／茨城 <7/13 茨城新聞>

http://ibarakinews.jp/news/news.php?f_jun=13104814390804

◆放射線下水汚泥、柳津町が受け入れ拒否／福島 <7/14 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/fukushima/news/20110714ddlk07040200000c.html>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部
〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F
TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512
ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

